



平成25年3月25日

卓話 『匠の手』

禎心会病院脳疾患研究所所長

上山 博康 様

今日は、今の日本の医療に必要なことは何かという話をします。自画自賛じゃないですけど、日本の脳外科医は本当に素晴らしい人が多いです。夜中まで厭わず働きます。脳腫瘍とか脳動脈瘤、脳卒中、全部脳外科がやっています。近年、この脳外科にもものすごい逆風が吹いています。若い人が来ないんです。労働時間が長いとか激務だとか言われますが、一番大きいのは医療事故に対する訴訟なんですね。2005年の調査で訴訟が一番多いのは産婦人科。次は外科。示談で終わったのも入れて21%ですから5人に1人はやられている。それから賃金。全医者平均賃金が1300万円って多いと思われるかも知れませんが、病院の勤務医の平均です。開業している人は恐らく倍ぐらいになる。開業のピークって昔50代だったんですけど、今30代にシフトしています。勤務医が馬鹿臭いからどんどん開業しちゃう。これも外科医が減っていく原因の一つになっています。

今、各大学の医学部に占める女性の比率は飛躍的に高くなっていますが、診療科目の中で女医さんに人気のあるのは圧倒的に産科、小児科です。脳外科はかなり人気がない。女性の労働力は国の財産ですけど、これはゆゆしき問題なんですね。男女差別じゃなくて区別を、国として真剣に考えなくちゃいけないと思っています。

今から25年前、私は一人の脳腫瘍の患者さんを受け持つことになりました。そのとき患者さんから、中学生と高校生の息子が独り立ちするまで生きていたいと言われ、僕に任せてください、絶対成功させますと言い切ったんです。ところが

手術中の思わぬ事故で患者さんは意識不明の危篤状態になってしまいました。私は家族に土下座して謝りました。そのとき息子さんから言われたのは、「お父さんは先生のことを大好きだって言ってました。

だから信頼して手術を受けたんです。僕たちは何も言えません」という言葉でした。私はそのとき初めて、患者さんが命を掛けて私を信じてくれたことが分かりました。だから今、命がけの信頼をくれた患者さんに自分の全存在で応えます。実は患者さんは命を掛けて医者を信じるという言葉は、僕が30ぐらいの時に僕の師匠に言われたことなんですね。「お前はそれになんて応えるんだ。」失敗が分かって言い逃れを一所懸命考えている時に突然、その師匠の言葉が出てきて、ものすごい感覚に襲われました。このことだけは生涯の傷です。一生、僕が背負っていかなきゃいけない十字架だと思っています。

医療崩壊の原因は医療費の削減、医師不足などいろんなことが言われます。でも基本的には医療訴訟を恐れての委縮医療、委縮手術だと思います。その原因は、僕はやっぱり日本全体のモラル、人間力が低下しているためだと思います。日本人はプライドの国民だったんですよ。医療をやる人間を振るい立たせるには、そこを揺さぶるしかない。先程の師匠の言葉で、私は自分の生き方が決まったような気がします。

